

# 免疫学的機序による血小板減少

日常の検査で遭遇する血小板減少の機序の1つとして、免疫学的機序が挙げられます。具体的には主に抗体が関与しますが、抗体を介した血小板破壊による減少と、抗体を介した血小板凝集による減少に大別されます。また、体内ではなく試験管内でのみ出現する血小板減少があり、検査干渉として重要です。臨床的特徴の把握に加えて、免疫学的機序という側面からの深い理解は、血小板減少にかかわる検査実地の向上につながります。

本特集は「免疫学的機序による血小板減少」をテーマに掲げました。臨床的には異なるさまざまな血小板減少を、免疫学的機序という共通項で同じ土俵に上げて第一線のエキスパートの方々に解説いただきました。本特集が、免疫学的洞察から検査学的洞察への橋渡しとなり、translational medicine に倣って translational laboratory と呼べるような検査の進化につながるヒントとなれば幸いです。

涌井昌俊(慶應義塾大学医学部臨床検査医学)